

# 流域治水プロジェクト2.0

～流域治水の加速化・深化～

- 気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させる。このために必要な取組を反映し『流域治水プロジェクト2.0』に更新する。

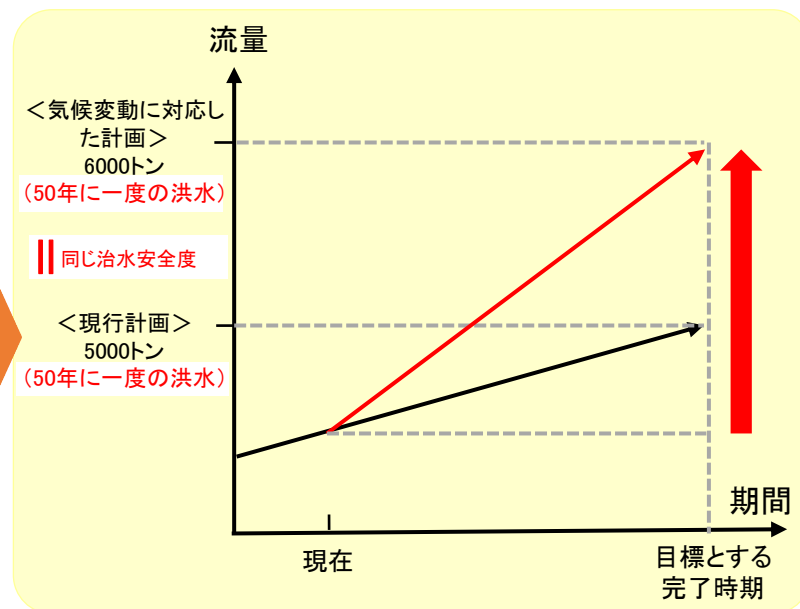
## 現状・課題

- 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算
- 現行の河川整備計画が完了したとしても治水安全度は目減り
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの対応
- インフラDX等の技術の進展

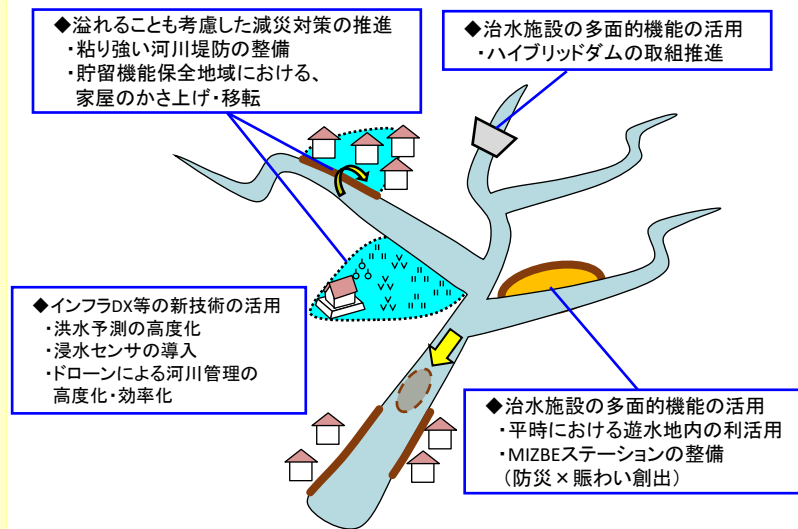
## 必要な対応

- 気候変動下においても、目標とする治水安全度を現行の計画と同じ完了時期までに達成する
- あらゆる関係者による、様々な手法を活用した、対策の一層の充実を図り、流域治水協議会等の関係者間で共有する。

## 必要な対応のイメージ



## 様々な手法の活用イメージ



降雨量が約1.1倍となった場合

気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模)
2℃上昇	約1.1倍

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量
	約1.2倍

同じ治水安全度を確保するためには、  
目標流量を1.2倍に引き上げる必要

※現行の計画と同じ完了時期までに目標とする治水安全度を達成するため、  
様々な手法を活用し、集中的に整備を進めることが必要

⇒現在の河川整備計画に基づく対策や流域における各取組を推進するとともに、気候変動を踏まえて追加で必要となる対策案の詳細については、更に議論を深めていく。

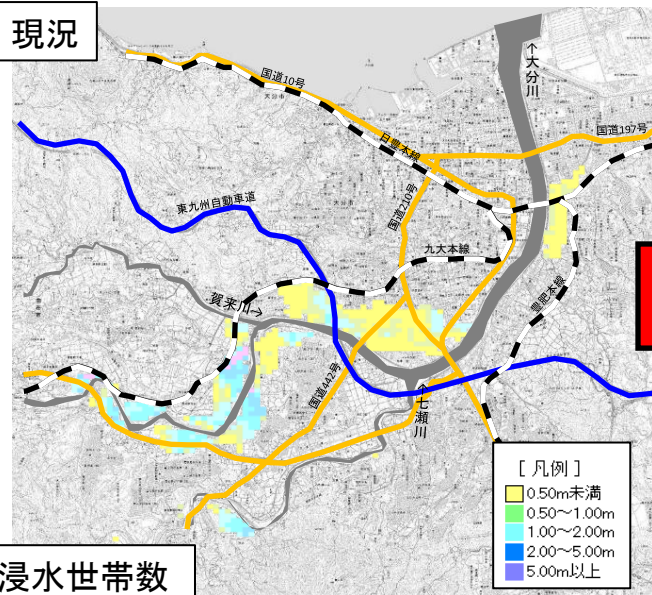
# 気候変動に伴う水害リスクの増大

○既往最大流量を記録したS28.6洪水に対し、2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水が発生した場合、大分川流域では浸水世帯数が約24,442世帯(現況の約2.59倍)になると想定され、事業の実施により、浸水被害が解消される。

## ■気候変動に伴う水害リスクの増大

※国管理区間における外水氾濫によるリスク

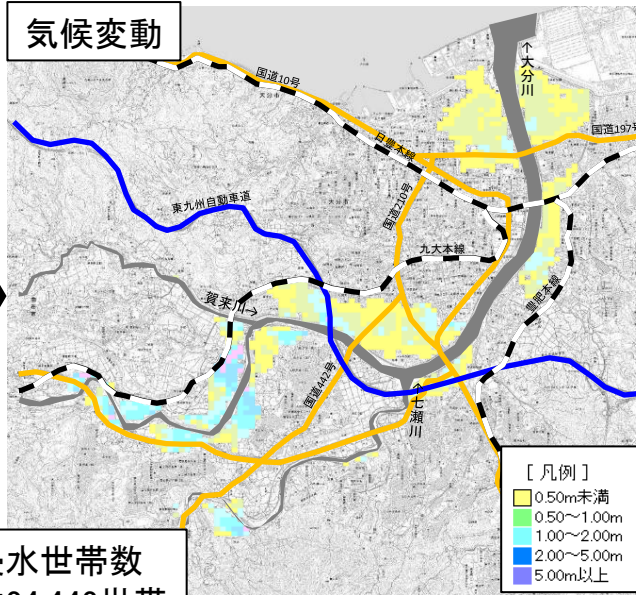
現況



浸水世帯数  
約9,424世帯

<現状>

気候変動

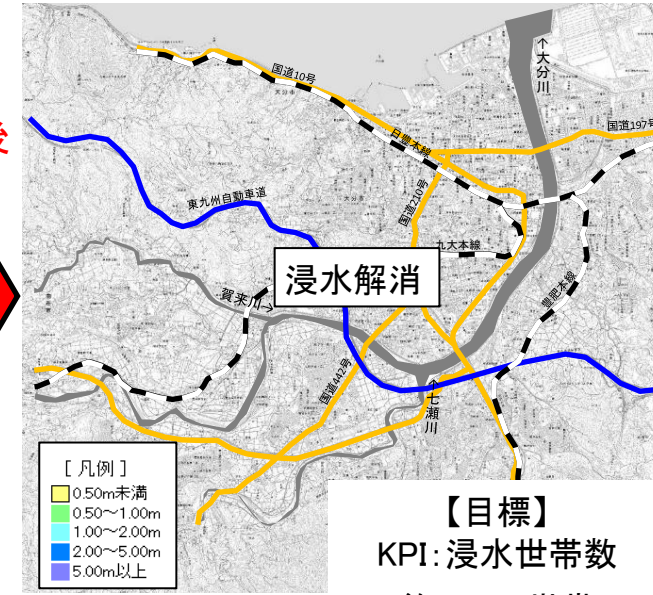


浸水世帯数  
約24,442世帯

<気候変動考慮(1.1倍)>

※国管理区間における外水氾濫によるリスク

対策後



浸水解消

【目標】  
KPI: 浸水世帯数  
約24,442世帯  
⇒0世帯

<対策後>

- 上図は、大分川、七瀬川、賀来川の洪水予報区間について、河川整備計画規模及び気候変動考慮後の外力により浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
- 上図は、大分川、七瀬川、賀来川における現況の河道・洪水調節施設の整備状況及び流域治水プロジェクト2.0に位置付けている国が実施する氾濫を防ぐ・減らす対策を実施後の状況を勘案した上で、氾濫した場合の浸水の状況を、シミュレーションにより予測したものです。
- なお、このシミュレーションの実施にあたって、国管理区間以外の支川においては、決壊、溢水・越水による氾濫は考慮していません。また、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。

## ■水害リスクを踏まえた各主体の主な対策と目標

【目標】気候変動による降雨量増加後のS28.6洪水規模に対する安全の確保

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ・減らす	国	約24,442世帯の浸水被害を解消	河道掘削 護岸整備 堰改築 既存施設の有効活用検討	概ね30年
	県・市町村	雨水貯留機能の拡大	水田の貯留機能向上の推進	—
	大分市	内水氾濫の軽減	住宅・事業所等における雨水貯留施設設置補助の推進・強化	概ね5年

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
被害対象を減らす	大分県	防災まちづくり	土砂災害警戒区域等の指定による土砂災害リスク情報の充実	—
	国	住民避難の促進	洪水予測の高度化	概ね5年
被害の軽減・早期復旧・復興	国	操作の確実性による浸水被害の軽減	河川管理施設の遠隔化	—
	大分県	避難体制等の強化	ため池の管理・監視体制の強化	—
	大分市	住民避難の促進	浸水シミュレーションによる浸水想定区域図の策定 内水ハザードマップの改訂	—



# 大分川水系流域治水プロジェクト

氾濫を防ぐ・減らす	被害対象を減らす	被害の軽減・早期復旧・復興
<p>○気候変動を踏まえた治水計画への見直し (2℃上昇下でも目標安全度維持) ＜具体の取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動を考慮した河川整備計画に基づくハード対策(河道掘削、護岸整備、堤防整備、堰改築、橋梁架替等)</li> </ul> <p>○流域対策の目標を定め、役割分担に基づく流域対策の推進 ＜具体の取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅・事業所等における雨水貯留施設設置補助の推進・強化(大分市)</li> </ul> <p>○あらゆる治水対策の総動員 ＜具体の取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・流域流木対策の推進</li> <li>・土砂・洪水氾濫対策の推進</li> <li>・水田の貯留機能向上の推進</li> </ul>		<p>○流域対策の目標を定め、役割分担に基づく流域対策の推進 ＜具体の取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内外水一体型のリスクマップの作成</li> <li>・ため池の管理・監視体制の強化(水位計・監視カメラの設置)</li> <li>・防災気象情報の周知・啓発</li> <li>・浸水シミュレーションによる浸水想定区域図の策定(大分市)</li> <li>・内水ハザードマップの改訂(大分市)</li> <li>・雨水管理総合計画の策定(大分市)</li> <li>・防災行政無線、防災ラジオの有効活用(由布市)</li> </ul>
<p>○既存ストックの徹底活用 ＜具体の取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存施設の有効活用検討</li> </ul>	<p>○土砂災害防止法に基づく警戒避難体制づくりの推進 ＜具体の取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂災害警戒区域等の指定による土砂災害リスク情報の充実</li> </ul>	<p>○インフラDX等の新技術の活用 ＜具体の取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洪水予測の高度化</li> <li>・河川管理施設の遠隔化</li> <li>・三次元管内図の整備</li> <li>・報道機関への水位及び画像情報の提供</li> <li>・危機管理型水位計・簡易型河川監視カメラの公開</li> </ul>

※ 上記の他、特定都市河川の指定に向けた検討を実施。



# 大分川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

R8.5月更新

～近年の気候変動による水害から県都大分市と全国有数の観光地を守るため流域連携によるハード・ソフト対策の推進～

<p>戦後最大洪水等に対応した河川の整備（見込）</p>  <p>整備率：74%</p> <p>（概ね5か年後）</p>	<p>農地・農業用施設の活用</p>  <p>3市町村</p> <p>（令和7年度末時点）</p>	<p>流出抑制対策の実施</p>  <p>0施設</p> <p>（令和6年度実施分）</p>	<p>山地の保水機能向上および土砂・流木災害対策</p>  <p>治山対策等の実施箇所 5箇所 （令和7年度実施分）</p> <p>砂防関係施設の整備数 0施設 （令和7年度完成分） ※施行中 7施設</p>	<p>立地適正化計画における防災指針の作成</p>  <p>3市町村</p> <p>（令和7年12月末時点）</p>	<p>避難のためのハザード情報の整備</p>  <p>洪水浸水想定区域 45河川 （令和8年3月末時点）</p> <p>内水浸水想定区域 1団体 （令和8年3月末時点）</p>	<p>高齢者等避難の実効性の確保</p>  <p>洪水 893施設 土砂 176施設 （令和7年9月末時点）</p> <p>個別避難計画 3市町村 （令和5年1月1日時点）</p>
---	--	---	---	---	---	---

## 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

「田んぼダム」実施  
田んぼダム専用例（機能分離型排水機）  
門型タイプ  
三角堰タイプ  
いずれかのタイプの田んぼダム堰板を排水機に設置  
豪雨時は雨水を田んぼに一時貯留し、流出量を抑制

「田んぼダム」未実施  
豪雨時は、流出量が抑制されず、排水路の水位が急上昇

### 田んぼダムイメージ図

### 田んぼダム堰板の設置

- ・流出量を抑制する堰板を設置し、水田に雨水を一時的に貯留させ、水路や河川の水位上昇を抑え、被害を軽減。

## 被害対象を減少させるための対策

### 止水板の設置

### 防水シャッターの設置

- ・氾濫による被害を防ぐため、浄水場の浸水対策を実施。（大分市）

## 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

水害監視カメラ設置箇所 位置図

凡例  
● カメラ

### 水害監視カメラの設置（大分市）

台風などの大雨時においては、職員などによる浸水状況の把握やパトロールが困難となることから、防災対応に大きな影響を及ぼす恐れがある。市民の安全・安心を確保し、事前防災を進めるため、特に浸水被害が発生する36箇所に水害監視カメラの設置を行い、状況を適宜把握しながら防災対応を行うとともに、リアルタイムな映像を市民に配信することで、自主避難の判断等、的確な避難行動に結びつける。

- 水害監視カメラシステムの主な内容
  - ・カメラの設置箇所数 36箇所
  - ・カメラ映像はライブ映像により常時公開
  - ・夜間でも映像が鮮明に確認できるカメラを使用
- 公開日 令和3年7月5日
- 公開方法
  - ・水害監視カメラシステムホームページ
  - ・YouTube「大分市水害監視カメラ」
  - ・ケーブルテレビ（※災害時のみ放送）